

学協会出版社はオープンアクセス以上のものを提供している：コミュニティにおける責任ある執務と再投資がまた問題である¹⁾ (Peter Farnham, William R. Brinkley)²⁾

科学雑誌のコンテンツに対する「オープンアクセス」の問題を巡って活発で時として辛辣な議論が科学および出版界で高潮に達している。オープンアクセスでは、雑誌の全ての論文が出版されたその日から無料で誰にでも利用できる。このモデルの下では、出版に関連する費用は専ら著者やそれどころか[著者への]助成資金源によって負担されることになり、読者はアクセス費用を支払わない。

アメリカ生化学・分子生物学会 (ASBMB: American Society for Biochemistry and Molecular Biology) は、科学文献に対する広範なパブリックアクセスを強く支援している団体である。1995年にASBMBの主要雑誌である *Journal of Biological Chemistry* (JBC) は、スタンフォード大学の HighWire Press との提携の下に完全にオンライン化された最初の基本科学雑誌となった。HighWire Press は、現在 359 の雑誌のオンライン版を搭載しており、その中には、世界で最も引用頻度が高い 100 の科学雑誌のうち 40 以上の雑誌が含まれている。これによって約 718,000 件の無料の研究報告が提供されている。このように HighWire Press は、生物医学コミュニティに対して世界で最大規模の生物医学のデジタル研究図書館への広いアクセスをもたらしている。

ASBMB は流行の先導者 (trendsetter) となることを続けていた。例えば、今や JBC Online のバックファイルは、インターネットアクセスにより誰でも無料で利用できる。これは、最初出版されてから平均 6 ヶ月後[の論文]に適用される。また、本学会は、多くの発展途上国に雑誌の最新のコンテンツへの無料のアクセスを提供している。

2001年に最も革新的な進展があった。ASBMBはJBC Papers in Pressを導入し、それによって投稿が受理された日にJBC投稿論文に誰でも無料でアクセスできるようにした。他のASBMBの雑誌も同じシステムをとった。本学会は、強固で効果的なビジネスモデルの形成と一貫性を保ちながらアクセスの強化を続けるであろう。

しかしながら、2001年以來、「著者支払 (author-pay)」モデルを提唱する主要なグループである Public Library of Science (PLoS) は、PLoS以外の科学出版のあらゆるビジネスモデルに対して広範囲にわたる攻撃を開始した。PLoSのモデルは、基本的には上記のオープンアクセスと並んで研究文献の無料のオンラインレポジトリを含むものである。PLoSは2つの電子ジャーナルを出版し、出版経費をカバーするために著者に1,500ドルの均一な手数料を課している。

時として非生産的な戦術をとるにもかかわらず、PLoSはASBMBおよび他の非営利科学出版社の大半と生物医学文献へのアクセスの増加を推進するという共通の目標を持っている。しかしながら、ASBMBとそれ以外の出版社は、独自のビジネスモデルを追及することを選択し、PLoSに参加しないままである。

PLoS は、出版手数料よりも大きな課金は行き過ぎであると主張している。だが、大半の学会は出版収入の多くを出版事業に再投資しており、その残りの収入は、奨学金、学会会議、補助金、教育機関への出張サービス (educational outreach)、研究資金のための広告、公衆への情報の無料配布および科学出版の改善のような科学の進展に使われている。学協会は他の収入源を開拓すべきであると軽率に勧告している PLoS にとってこれは大した問題ではないように見える。

PLoS はその雑誌コンテンツを無制限に自由に配布できる権利を認めている。しかしながら、それは記録の完全性 (integrity) を保証する仕組みを何も持っていない。改変、不注意による見落としやそれ以外の問題が、論文を再配布するときに容易に起こりうるし、読者は、複製された論文が適正であるかどうかを決して確認することができないのである。加えて、デジタル資料の保管は非常に[解決が]困難な課題であり、技術上の信頼性は問題のままである。

PLoS に参加するというよりはむしろ、ASBMB は「科学への自由なアクセスのためのワシントン DC 原則 (Washington, DC, Principle for Free Access to Science)」 (<http://www.dcprinciples.org>)³⁾を支持することを選んだ。DC 原則は 48 の非営利出版社と 600,000 人以上の科学者ならびに医師から賛同されている。

ASBMB は、次のような出版における重要な問題への取り組みを継続する。

- 1)同僚科学者への推奨を促す雑誌の品質を識別する
- 2)現行の出版モデルの重要な変化を必要とする、まだ満たされていないニーズを科学コミュニティが持っているかどうかを確認する
- 3)既存の科学文献出版モデルが公衆にいかに関与しているかを分析する
- 4)科学出版界で今後 10 年間に起こるできごとを予想する

注

- 1) Farnham, Peter and Brinkley, William R. Society publishers provide more than open access: Responsible stewardship and reinvestment in the community also matter. *The Scientist*, Vol.19, Issue 13, July 5, 2004.
http://www.the-scientist.com/yr2004/jul/opinion_040705.html の翻訳
- 2) Peter Farnham は ASBMB の渉外担当役員。William R. Bingley 博士はベイラー医学校の分子・細胞生物学部の特任教授、科学大学院副学長、生物医学学科長。本記事の見解は著者個人のもので ASBMB あるいはベイラー医学校の見解を何ら反映するものではない。
- 3)この原則では、出版に必要な経費は著者や研究資金助成団体のみが負担すべきではない (6.)、また、雑誌論文の全文は、各出版社の経営要件および出版要件によって出版後即座にあるいは一ヶ月以内に無料で世界の誰もが利用できる (3.)、と述べられている。